

石狩の作品集

2025 第30集



目 次

石狩の作品集 第30集に寄せて

石狩教育研修センター教育研究所 所長 東 祐史 … 1

選ばれることの喜び

石狩管内教育研究会 図工・美術部会 部長 江田 充子 … 2

小学1年生の作品 … 3

小学2年生の作品 … 9

小学3年生の作品 … 17

小学4年生の作品 … 20

小学5年生の作品 … 24

小学6年生の作品 … 29

中学1年生の作品 … 31

中学2年生の作品 … 37

中学3年生の作品 … 42

石狩の作品集第30集編集委員名簿 あとがき … 46

「石狩の作品集 第30集」に寄せて

石狩教育研修センター教育研究所

所長 東 祐 史

この度、『石狩の作品集 第30集』が、関係の皆様方のご尽力により、取りまとめられ、発行できますことに心から感謝を申し上げます。

今年度も石狩管内各校より、子どもたちの素敵な作品が揃いました。一つ一つの作品に子どもの思いや指導者の意図が感じられるものであります。教科の「見方・考え方」として、図画工作科、美術科では「想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点でとらえ、意味や価値をつくりだすこと」としています。この作品集を通して、造形的な視点で意味や価値を作り出す参考にさせていただきたいと考えています。

ご承知のとおり、本作品集は、石狩管内教育研究会図工・美術部会の皆様方の手により、優れた図工・美術の作品が収集され、編集作業を経て広く石狩管内に普及・活用されてきたものです。長年にわたる石狩管内各校の日常実践と石教研図工・美術部会の研究活動を通して積み上げられた図工・美術科教育の成果の一つであり、是非とも多くの先生方に、管内の子どもたちの作品をご覧いただくとともに、授業をはじめとする様々な教育活動にご活用いただければ幸いです。

今年度も、より活用しやすい作品集とするため、作品をデータ化し「デジタル作品集」としてホームページに掲載することと致しました。各学校では、この「デジタル作品集」を一つのツールとして活用していただきたいと考えております。これからも本作品集を閲覧、利用いただく皆様からの意見・要望等をいただきながら、より良い作品集となるよう努めて参ります。

結びになりますが、改めまして、ご指導いただきました先生方、編集等に携わっていただきました委員の皆様、部会役員並びに部会員の皆様に感謝申し上げますとともに、管内の図工・美術科教育のますますの充実をご祈念申し上げ、発行にあたってのご挨拶といたします。

「選ばれることの喜び」

石教研図工・美術部会
部長 江田 充子

「石狩の作品集」がデジタル化となって 3 年目を迎えます。製本していた頃は掲載された子どもたちへ作品集として配本されていました。

今年度、私は掲載作品を 4 点選びました。その 4 名に 4 年前の作品集を見せ、利用目的を含めて説明し、掲載許可を得た時のことです。

現在はデジタル掲載のため、製本し配本はしていないこと、氏名は公表されないこと、保護者にも掲載の承諾を得ることなどを伝えました。きっと作品のデジタル掲載に抵抗を感じたり、配本がないことにながかりしたりするかと思ったのですが、4 名とも説明の最中から「選ばれてうれしい」と言わんばかりの笑顔を見せてくれました。また「名前が載ってもいい。うれしい。」と高揚した気持ちをストレートに表現し、選ばれたことの喜びを伝えてくれました。

その姿から、ふと昔の自分を思い出しました。私も小中学生の頃に工作や絵画が選ばれ、展示されてうれしかったことを。一生懸命に考え、試行錯誤しながら制作し、完成した作品が評価され、多くの方に見ていただけることは、とっても喜ばしいことを。それは、今の子どもたちも同じであることを改めて実感しました。

子どもたちは作品を通して、自分の気持ちや考えを言葉ではなく色や形で表現しています。それは自分の心の中を映し出すようなものだと思います。さらに制作過程は、自分の考えや感じ方を見つめ直すことにつながり、新たな自分を知るきっかけにもなります。こうして子どもたちは美術を通して成長していくのだと思います。このように表現活動には子どもたちの成長に欠かすことのできない力がたくさんあります。

「石狩の作品集」にも成長していく子どもたちの魅力が詰まっています。身近な子どもたちの作品をいつでも鑑賞できる最高の資料である「石狩の作品集」。小中両方の作品を同時に鑑賞できる「石狩の作品集」。

図工美術部会の会員として多くの作品を掲載していきましょう。そして、たくさんのお子たちの笑顔を想像しながら作品を鑑賞してみましょう。

作品掲載を通して「選ばれることの喜び」を多くのお子たちに味わわせてほしいと思います。

子どもたちの笑顔がたくさん見える、そんな「石狩の作品集」になることを心から願っています。



千歳市 小学1年 題名 オニオオハシ

子どものことば

1ねんせいのしゃかい見学で、まる山どうぶつえんへいきました。ぼくは、オニオオハシを見たかったので、グループのみんなといっしょに見にいきました。見たとき、すごくかっこいいとおもいました。ポケモンのドリルクチバシでこうげきしてきそうなのはくりよくがありました。またいきたいです。

先生のまなざし

社会見学の計画の時から、オニオオハシをみたいと張り切っていました。当日、ちょうど隣のクラスの先生と一緒にとんでいるところを見たそうで、「かっこよかったね!」と話したそうです。その迫力を表そうと大きく、派手な色彩で描いたオニオオハシです。実際は1匹だったらしいですが、たくさんのオニオオハシを描くことで、見学できた喜びと迫力、興奮を表現していると思います。背景を絵の具で塗るのは初めてでしたが、素敵な紺色でていねいに塗ることができました。



恵庭市 小学1年 題名 おおきい こうもり

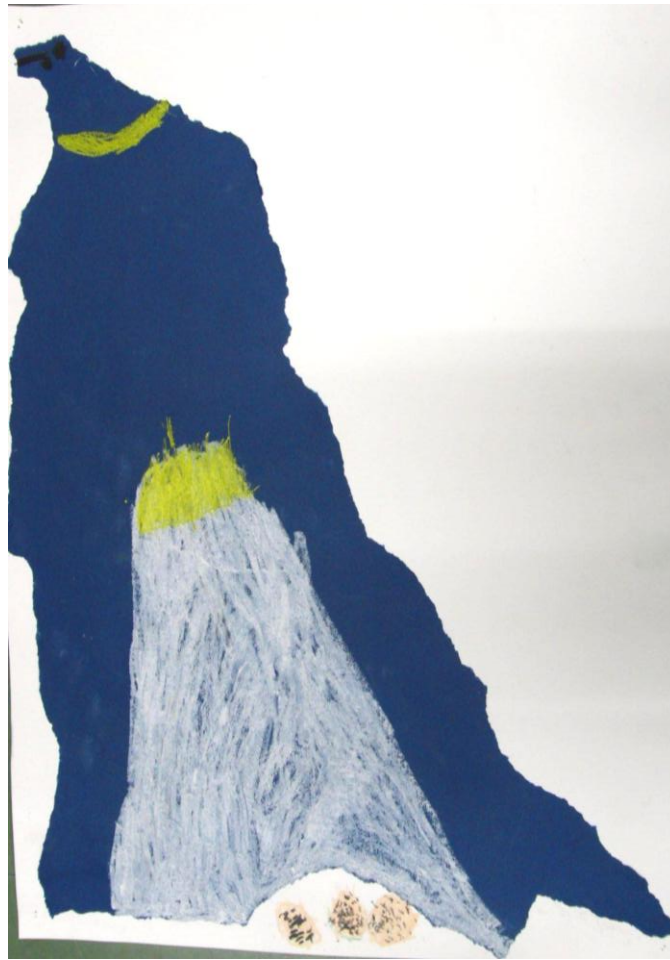
子どものことば

くらい、ぞわぞわしたところに出てきたこうもりです。たてに見てそうじきにしようか、よこに見てこうもりにしようかまよって、こうもりにしました。はねのもようを、よくかんさつしてかきました。たのしかったので、またやぶいたかたちでえをかいてみたいです。

先生のまなざし

こうもりの特徴を表現するために、使いたい紙の色に映える色を工夫し、毛並みや羽根の筋を描き表していました。

「こうもりが飛んで見えるようにするにはどうすればいい？」と相談され、「周りに描き足すことで表現できるかも。」とアドバイスしたところ、枝を描き足し、「雰囲気が出た！」と喜んでいました。



恵庭市 小学1年 題名 ペンギン

子どものことば

たまごをあたためているかわいいペンギンをつくりました。ペンギンのもようをうまくかけたところが、お気に入りです。ぐうぜんやぶいたのに、ペンギンみたいなかたちできて、うれしかったです。

先生のまなざし

やぶいた紙の形を見た時から、「これはもう、どう見てもペンギンにしか見えない！絶対ペンギんだ！」と熱い思いをもって制作していました。

「このお腹はねえ、ふかふかなんだよ。」「今たまごをあたためているんだけど、このたまごからはかわいい赤ちゃんが産まれるんだ。」と、すてきなストーリーも生まれていました。



石狩市 小学1年 題名 ねこボックス

子どものことば

はこのそとがわをねこのかおにしました。はこのうちがわはねこのすきなさかなとうみをイメージしてつくりました。

シールやこまかいものをいれやすいように、かみコップをつけてくふうしました。

先生のまなざし

制限時間ぎりぎりまでこだわって作っていました。左側の小物入れはふたつきでばらばらにならないようにしていたり、入れる物のサイズ感に合わせて紙コップをつけていたりと実用的な工夫をしています。右側の海ゾーンは海藻やタコがいて、楽しい空間になっています。猫の顔の色遣いやふたの鍵など、見れば見るほど楽しくなる作品です。



石狩市 小学1年 題名 たいせつボックス

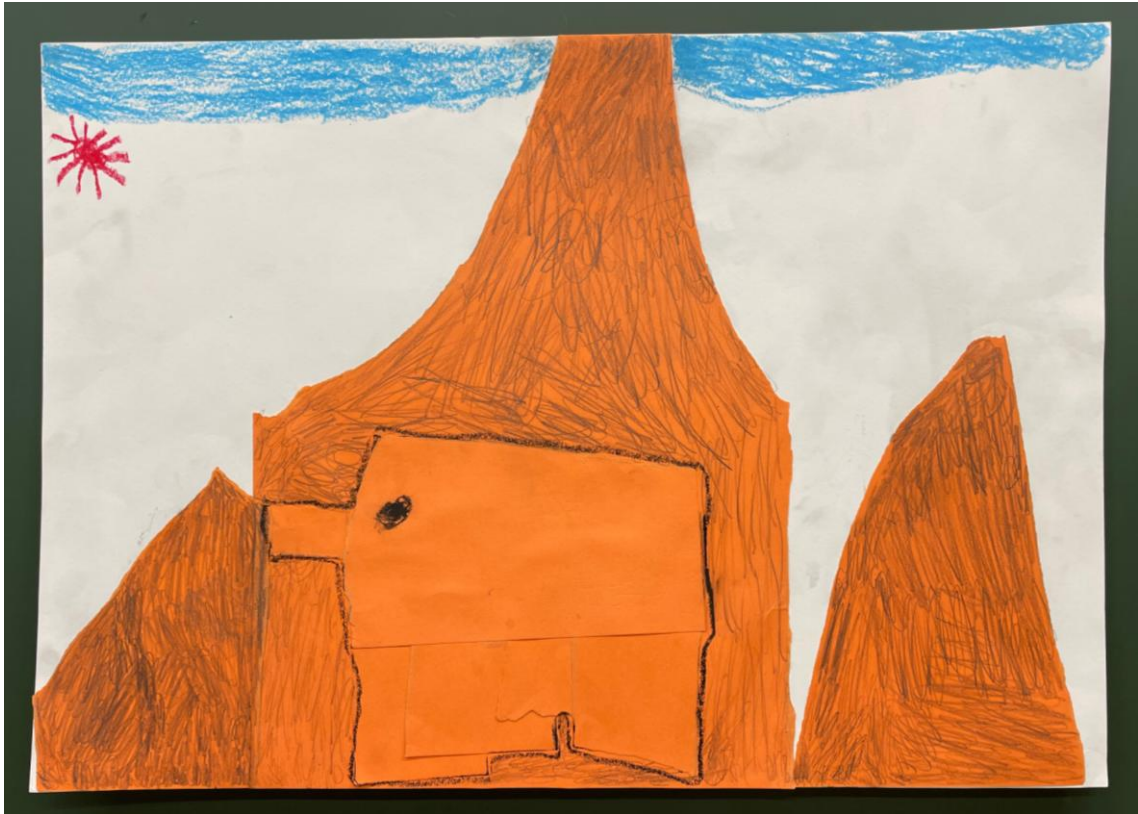
子どものことば

自分の大切な物をしまう箱「たいせつボックス」に紐をつけて持ち手をつけました。クリスマスみたいにキラキラにして、モールと紐を組み合わせました。折り紙を折って切って模様を作ってから箱の上に貼りました。箱の中も、キラキラにしています。

シナモンが好きなので、シナモングッズを大切にしまおうと思います。

先生のまなざし

「どんな大切な物をしまおうかな」と考えながら作りました。持ち手をつけるのに苦労していましたが、ペットボトルのキャップで紐をおさえてつけました。飾りを作っているときも、色合いや模様を考えながら、楽しそうに作っていました。



当別町 小学1年 題名 マンモス

子どものことば

紙をやぶいていったら、山に見えました。
四角みたいな形にやぶけた紙は、マンモスになりそうだったので、すこしかさねました。

先生のまなざし

勢いよく破くのではなく、色画用紙を少しずつ丁寧に破いていくと、斜めの線ができました。画用紙の反対側も同じように破いて出来た形を「山みたい」と嬉しそうに話をしていました。

山を表すために細かい線を描き込んだり、マンモスを配置したりと、楽しそうに作っていました。丁寧さが、ほんわかと温かい雰囲気を作り出し、素敵な作品です。



千歳市 小学2年 題名 ふしぎなアマゾン

子どものことば

かば、ジャガー、わに、うなぎがアマゾン川に入っているところを描きました。ツタと川から草も生えています。たまごの模様はアマゾンイメージしました。たまごの周りにはカエル、虎の足跡があり、木が生えていて、川の色をしたところもあります。

先生のまなざし

生き物が大好きなお子さんの作品です。たまごの中から少しずつ見えている動植物から自然に対する気持ちが伝わってきます。たまごの周りにも力をいれていて、アマゾンイメージしたさまざまなものを丁寧に描いています。



千歳市 小学2年 題名 せきぞうとにんげんのまち

子どものことば

モアイ像や人間、船などが登場する世界をイメージして作りました。切った形を何にしようか考えることが難しかったです。右側の部分は、頑張ってモアイ像の顔を表現したので注目して見てほしいです。

先生のまなざし

はさみを上手に使い、色々な形に切っていました。細長い形を使い、石像達が列をなして進んでいる世界をよく表現しています。全体的に1つ1つのパーツをよく考えて配置して、色々な形を積極的に使っているところがいいですね。



恵庭市 小学2年 題名 帰ってきたサケ

子どものことば

社会見学で、さけのふるさと千歳水族館へ行きました。大きな水槽の中を泳ぐさけを見て、びっくりしました。学校で「社会見学のあとは、お魚の絵を描くよ」といわれていたもので、どう描こうか考えながら見学しました。思っていたより赤や黄色の魚がいっぱいたったことを思い出しながら色を選びました。

先生のまなざし

進級直後は「ぼくは絵が苦手だから、図工の時間も楽しくない。描き方がわからない。」と話す子でした。写真をプリントアウトし、画面分割の線を入れながら拡大して描く方法を教えたり、「手のひらを置いてもはみ出るくらいの大きさで!」「輪郭の線を太くくっきりと」などの指示を出したりしながら、色は本人が決めました。絵の出来栄えに「大満足」という様子もかわいいです。



恵庭市 小学2年 題名 かっこいいぼく

子どものことば

画用紙を切って、ペタペタ貼っていくのが楽しかったです。さいごに、かつらのように髪の毛をのせたら、ぼくそっくりになりました。インクをつけたら真っ黒になってびっくりしたけど、そーっと紙をはがしてぼくが出てきたときに、思わず「おーっ」と声が出ました。

先生のまなざし

絵や工作が大好きな子で、自分なりの絵の描き方をもっています。より奥行きを感じさせる画面構成などを指導すると、「ああそうか」といいながら、集中して制作に取り組んでいました。下絵は描かず、福笑いの要領で顔のパーツを楽しみながら貼りました。目は「土台（目の形）・目玉・（まぶた）」を順に貼ったので、表情が豊かになっているように感じます。



江別市 小学2年 題名 ていねプール

子どものことば

家族で手稲プールに行った思い出を描きました。ウォータースライダーやプールで泳いで楽しかったです。たくさん人がいてみんな楽しそうにしていました。素敵かなと思ってりんごの木も描いてみました。

先生のまなざし

プールで遊んだことを楽しそうに思い出して描いている姿がとても印象的でした。何を描くか決めているのではなく、思い出したことから描き加えているようでした。楽しかった思い出をそれを描くことで振り返ることができ、その作品を鑑賞する側も嬉しい気持ちになるなんて、とても幸せだなと思いました。



江別市 小学2年 題名 はじめて市場へ行ったよ

子どものことば

ぼくは、はじめてはこだての市場へ行って、いっぱい魚を見れてうれしかったから、この絵にかきました。アカメと貝が見れて、うれしかったです。

先生のまなざし

2年生の単元「こんなことがあったよ」では、生活の中で心に残っていることを絵に表しました。初めて行った市場で初めて見たお魚たち。その時のわくわくした嬉しい気持ちを思い出しながら、迷いなくクレヨンで描いていく姿が印象的でした。彩色の時間には、クレヨンの線を消さないように、最後まで丁寧に塗り、作品を仕上げることができました。



石狩市 小学2年 題名 ふしぎなたまご

子どものことば

カラフルなたまごから、カラフルな小鳥がでてくるのを想像して描きました。たくさんの色で明るく、デザインも工夫しました。中から、たくさんの色で羽を描き、かわいい小鳥にしました。

先生のまなざし

「どんな形や色のたまごにしようか」と想像しながら描いていました。カラフルな色と模様を工夫していました。また、想像したことを最後まで楽しそうに描き、丁寧に仕上げていました。描いていて楽しいという思いが伝わってきます。



石狩市 小学2年 題名 ひみつのきょうりゅうのせかい

子どものことば

きょうりゅうが大すきで、きょうりゅうがたくさんいるせかいをつくりたくてかきました。きょうりゅうのたまごから、いろいろなきょうりゅうがとびだし、みんなで楽しくあそんでいます。きょうりゅうのたまごなので、たまごにしっぽをつけました。

先生のまなざし

魚や昆虫、草花など、生き物が大好きで、友だちや先生にいろいろな話をしてくれます。今回は、大好きな恐竜で「ふしぎなたまご」の絵を描きました。「この恐竜はプテラノドンで、トリケラトプスと遊んでいるんだよ。」と、生き活きと楽しそうに絵の紹介をする表情から、絵に込めた思いが伝わってきました。この絵のような恐竜の世界に行ってみたくくなりました。



千歳市 小学3年 題名 またね、ショコラ

子どものことば

びょうきでペットのショコラが死んでしまいました。みんなさびしくてかなしくなりました。とてもかなしみがあふれていることを、青い大きな丸で表しました。

先生のまなざし

ペットの死という大きなかなしみを、形や色を工夫して表現しています。ショコラを見守る家族の表情や二人を取り囲む青い色、静かに横たわるショコラの様子からも、深いかなしみが伝わってきます。



千歳市 小学3年 題名 初めてのクワガタのペット

子どものことば

ぼくは、クワガタが大好きなので、本物を買ってもらいました。買ってもらったクワガタは、とてもきらきらしていたので、星をまわりにかきました。そしてぼくは、うれしかったので、ぼくのまわりにいろいろな明るい色をぬりました。

先生のまなざし

真ん中に大きくクワガタをかいたところや明るい色の線のからまりから、うれしかった気持ちがよく伝わってきます。また、クワガタの羽や目がつやつやと輝いていたことを表現しようと、クワガタだけ絵の具でぬったところにも、工夫が感じられます。枝をつかむクワガタの足や自分の手が、力強いですね。



江別市 小学3年 題名 ハワイのせんすいかん

子どものことば

家族でハワイ旅行に行って、せんすいかんに乗ったときの気持ちを描きました。せんすいかんの周りの海にぼかしを使って、楽しかった気持ちを表現しました。色をたくさんつけたところをがんばりました。

先生のまなざし

ぼかしを上手に取り入れて、潜水艦に乗れたうれしい気持ちを表現していました。下描きの構図からじっくり考え、潜水艦を大きく描き、窓に笑顔の自分を入れていました。色塗りも最後まで集中して丁寧に取り組んでいました。



北広島市 小学4年 題名 宇宙に一つだけの花

子どものことば

宇宙に一つしかない花があったらいいなと思って、かきました。この花は、ブラックホールから出てきた奇跡の花です。だから、くきが長いのです。ブラックホールは寒いのかなと思ったから、氷のような花にしました。火星や木星もあります。

先生のまなざし

「まぼろしの花」という題材に対して、想像をふくらませていました。宝石のように四角いもようが組み合わさっていて、その一つ一つに丁寧に色を塗っているところがすてきです。色がにじむように水を上手に使って描いていました。色を混ぜ合わせて、いろいろな青も表現しています。



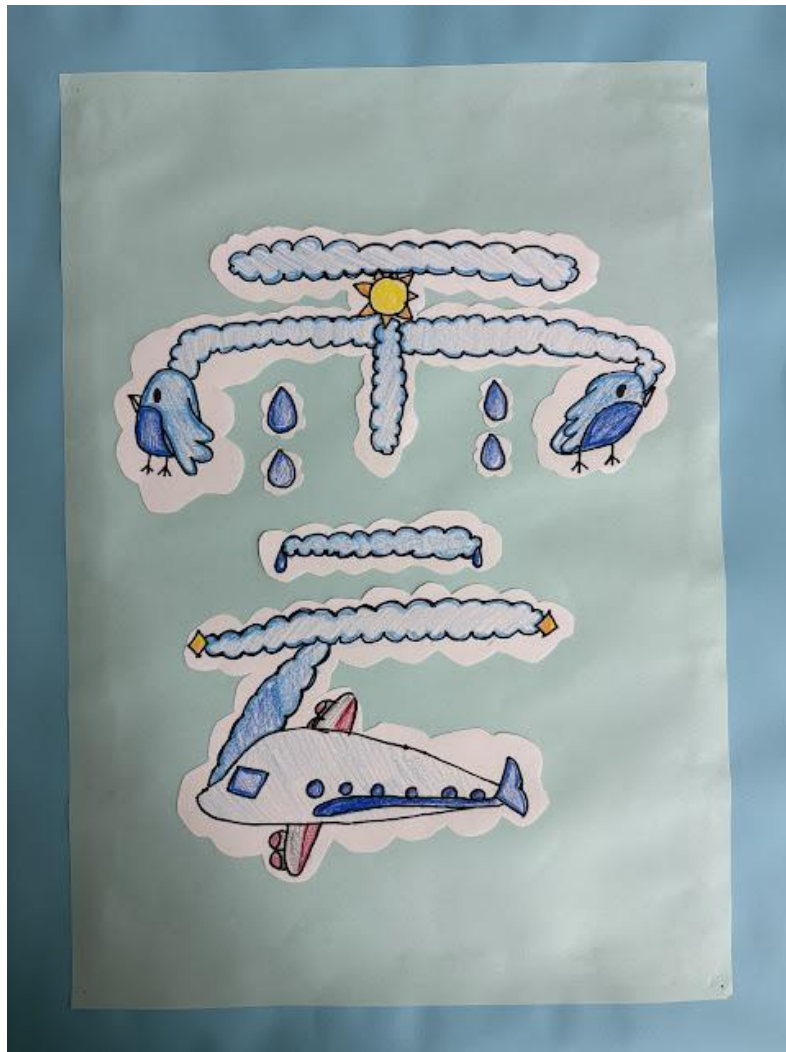
北広島市 小学4年 題名 空にうかぶ花

子どものことば

わたしは、星が好きなので、星といっしょにうかんでいる花があったらいいなと思いました。花の下の葉は魚になっていて、空は赤、黄色、青のグラデーションにしました。星は、白い絵の具をちりばめました。その花を見に鳥が遊びに来ています。

先生のまなざし

いろいろな絵の具の色を使って、混ぜながら丁寧に色を表現しています。鳥の黄色や花のピンクも色が少しずつちがっていたり、グラデーションになっていたり、ていねいに描いていました。特に、スパッタリングで、空に白い星がたくさん散りばめられているのがすてきです。



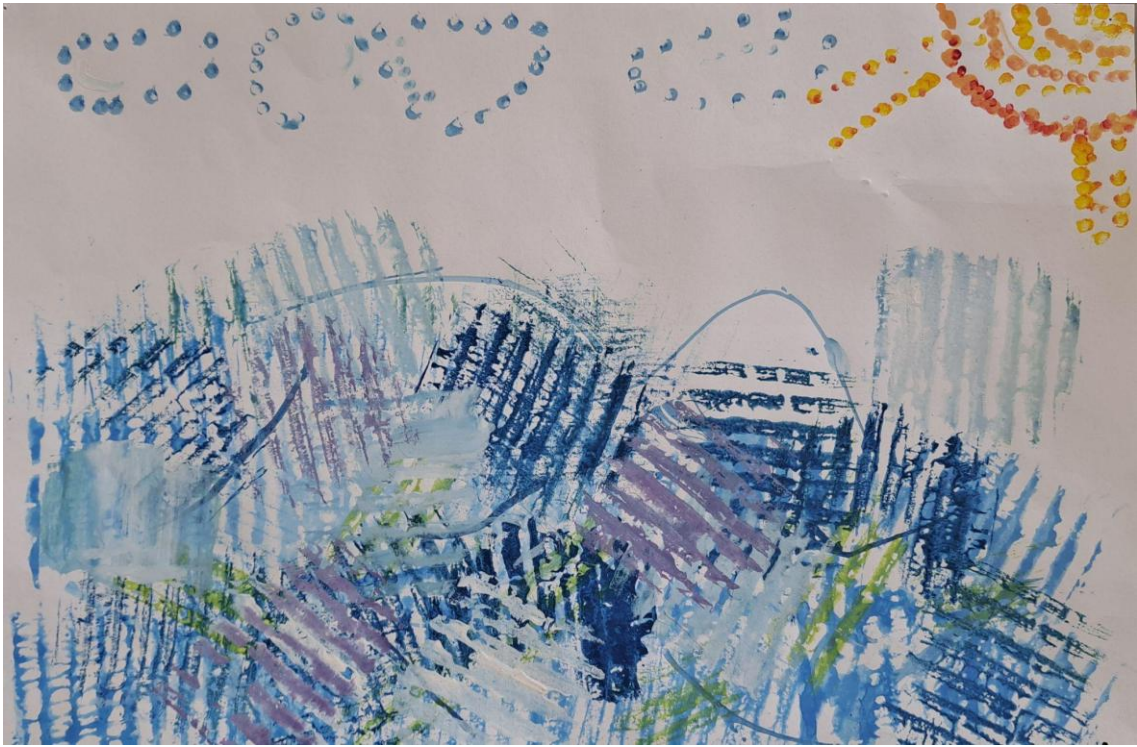
石狩市 小学4年 題名 漢字アート「雲」

子どものことば

雲の周りにあるものを初めに想像したときは、太陽や空を飛んでいる鳥が思い浮かびました。「もう少し何かないかな」と描きながら想像すると、パッと飛行機が思い浮かんだので、最後に飛行機をつけ足しました。

先生のまなざし

「雲」から連想されるものをイメージした時に、飛行機が思い浮かんだところを見て、子どもの発想力の豊かさに驚かされました。



石狩市 小学4年 題名 もくもくの海

子どものことば

海は透明感があってきれいで好きだったので、明るい海を想像して描きました。ダンボールをはがして絵の具をつけたり綿棒でスタンプしたりすると、いろんな模様ができて楽しんで作品づくりができました。

先生のまなざし

ダンボールや綿棒を使って、海を表現していました。青1色だけではなく、寒色を組み合わせで表現しています。また、筆で波を書き込んでいて、工夫された作品に仕上がっています。海が大好きなのだとよく伝わります。



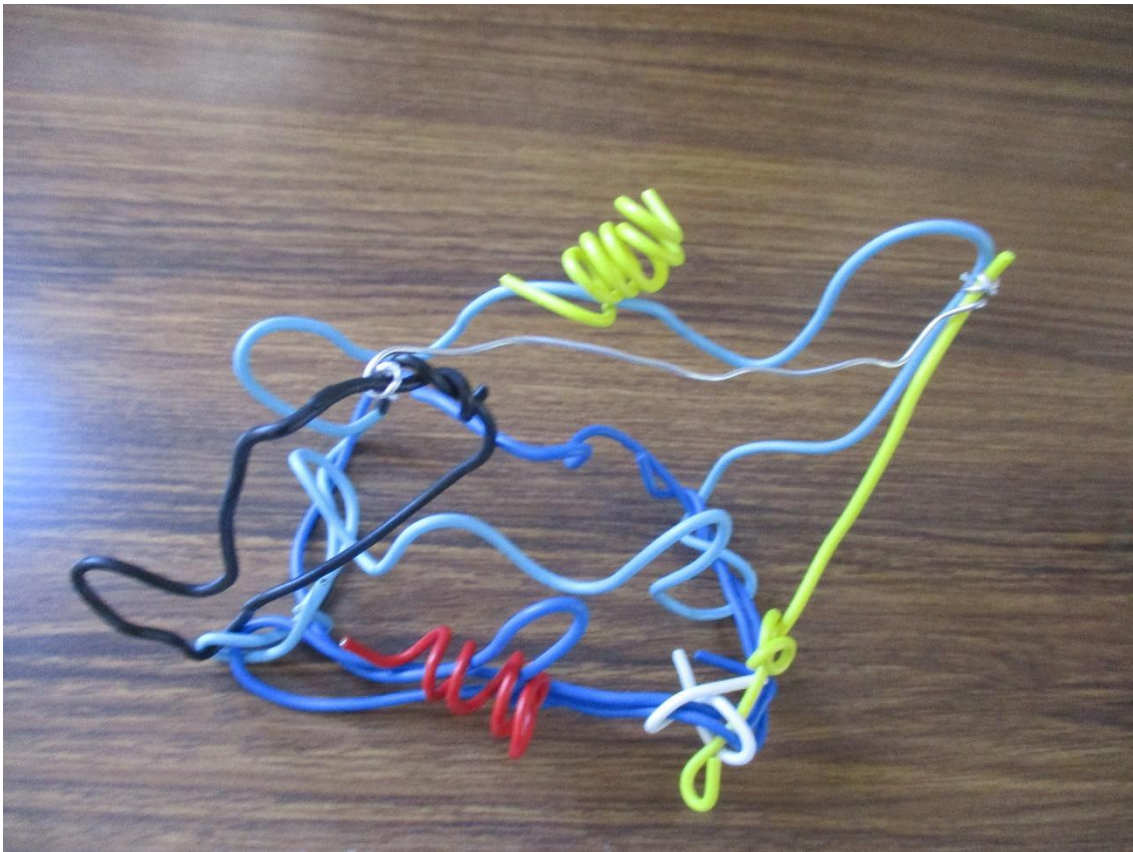
千歳市 小学5年 題名 登校

子どものことば

レンガの色を塗るのが大変でした。特に、一つ一つのレンガの色を変えたり調節したりしながら、作品を完成させることに力を入れました。完成した後は、思っていたよりもうまくできたので、うれしかったです。

先生のまなざし

時間をかけて丁寧に作品作りに勤しみました。レンガの色を何度も試行錯誤し、一つ一つのレンガの色を決めることができました。自分のうしろ姿を描くのは難しそうでしたが、イメージしながら形にすることもがんばりました。



千歳市 小学5年 題名 つれたっ！

子どものことば

つりざおと魚が最初なかなかうまく立たなかったけど、最後は立たせることができました。波を青と水色の 2 色で表現したことで美しくできたと思います。赤と黄色のぐるぐるは波の流れを表しているよ。

先生のまなざし

魚が釣れる瞬間をよく表現しています。釣れた瞬間の勢いのある釣り糸と魚が逃げようとする姿がとてもおもしろいです。荒波の様子を黄色と赤色の針金、さらにぐるぐるで表現するところがいいですね。



江別市 小学5年 題名 光の希望の涙のかたまり

子どものことば

写真から想像して白い花とかが、風景とかに使えるなと思って選びました。下の部分や真ん中の部分がきれいに描けてよかったと思いました。色をグラデーションにして、薄い色から濃い色になるところを工夫しました。森の中で、白いのは、葉っぱが飛び散っているみたいに表現しました。光は白と黒の色を使って絵の具でとんとんしてつけた模様です。希望の意味は、光と希望が涙を出してさっきの光が涙になったのを表現してみました。

先生のまなざし

グループでアートカードの写真を見ながら写真を選びました。写真から想像を膨らませて「まだ見ぬ世界」を描く題材です。きれいな緑色のグラデーションになるように水をたっぷり使って丁寧に塗り、作品を仕上げることができました。

光が差し込むきれいな風景を表現することができました。



石狩市 小学5年 作品名「ジューシーな果物」

子どものことば

作品で見てほしいところは、オレンジや赤色を使ったグラデーションです。とても難しかったですが、きれいに仕上げることができました。また、黒画用紙で作品の枠をきれいにカッターで切り、上からうまく貼り付けることができました。

先生のまなざし

絵具をパレットで何度も試し塗りしながら、色鮮やかな作品に仕上げることができました。作品のタイトルにあるように見ただけでジューシーさが伝わってくる素敵な作品となっています。



当別町 小学5年 題名 朝と夜のアスレチック

子どものことば

アスレチックをのぼると夜につながっている不思議な世界を表しました。アスレチックに水をぬって色をまぜて不思議なオーラをだしました。

先生のまなざし

『まだ見ぬ世界』様々な風景の写真から1枚選び、その続きを色と形のつながりを意識して想像して表現する題材です。

単に写真の続きを表現するだけでなく、想像力を働かせ、豊かな表現力で細部まで丁寧に着彩し、イメージを大切にする姿が見られました。



千歳市 小学6年 題名 思い出の場所

子どものことば

図書室前の廊下で、本読みや一人反省をしたり、友達と一緒に話したりした場所です。温かいイメージにしたいくて、淡い色を使いました。

窓から見える木は、色を徐々に変えながら、丁寧に細かくぬってみました。

先生のまなざし

小学校生活をふり返り、思い出の場所を絵に表しました。廊下にある大きなふわふわしたソファの感じや、青々とした葉をたくさんつけた木の様子などを水の量を調整し、筆先を使いながら工夫して表現することができました。この場所で、ゆったり過ごした思いが絵に表れています。



当別町 小学6年 題名 なみの空

子どものことば

満月で、空の色はよく分からないような、ふしぎな感じがする。くふうは、光の表現や、雲みたいなやつ。

先生のまなざし

『この筆あとどんな空？』ゴッホの作品などを鑑賞し、筆あとや色の表現の美しさを感じ、自分の想像する空を表現する題材です。

ゴッホの鑑賞を活かし、色使いや筆遣いを工夫して表現していました。表現する中で広がっていくイメージがタイトルにもよく表れています。



恵庭市 中学1年 題名 絵文字「愛」

子どものことば

「愛」を絵文字で表現しました。全体を人に見せて、「心」を包んでいるようにしたところを工夫しました。全体的にピンクや赤をつかい、かわいらしい感じにしました。下のハートのところを、ぷっくりしているように見せたところが上手く表現できました。

先生のまなざし

「愛」が溢れる作品になりました。顔の部分からも穏やかで、心を包み込む温かさを感じます。縁取りが大変そうでしたが、上手くできて、とても満足できる作品になったと感想を持っていました。縁取りの色の選択もよく、かわいらしさが強調された作品になりました。



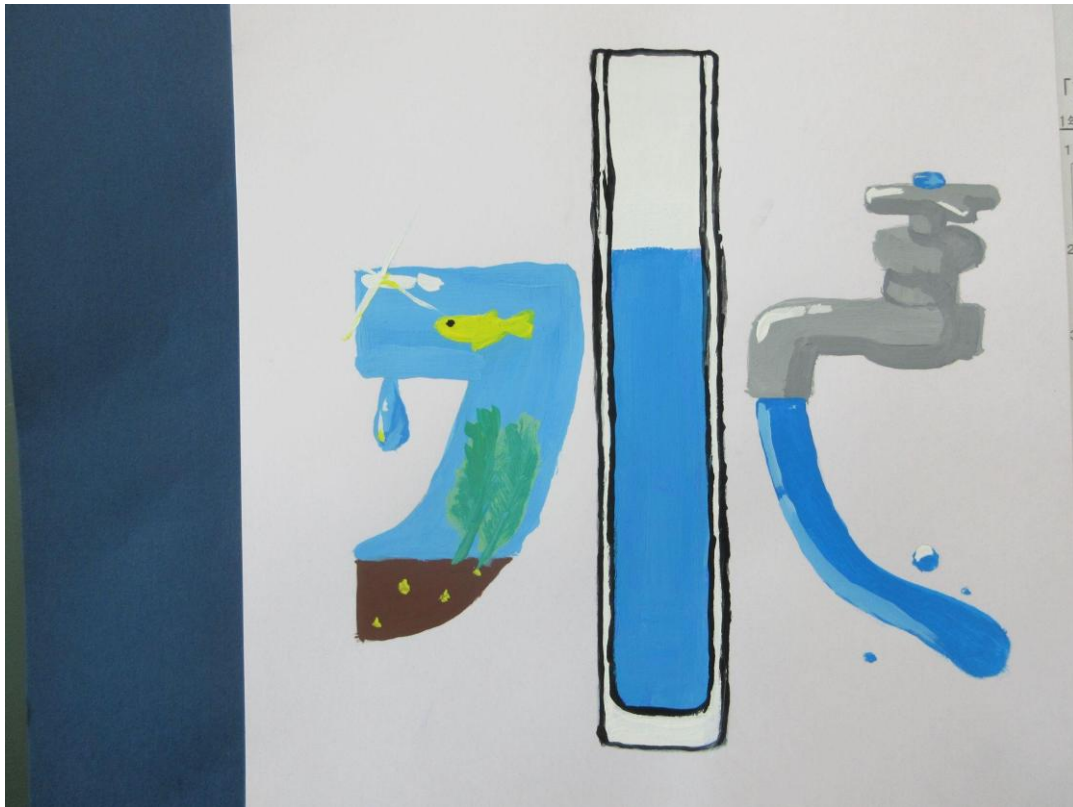
恵庭市 中学1年 題名 絵文字「恵」

子どものことば

恵庭の「恵」を表現しました。恵庭らしくするため、田の部分の本、心の部分を花、しおりの上にはすずらんをくわえた鳥を描きました。恵庭には黄色のイメージがあったのでオレンジとグラデーションにして明るくしました。グラデーションと花の色を立体的に表現できました。

先生のまなざし

恵庭のことをよく理解しているモチーフが取り入れられています。花や本をメインにし、一つ一つを丁寧に描いている様子が印象的でした。難しい立体表現など、何度もやり直していましたが、完成時には満足できる作品に仕上げていました。



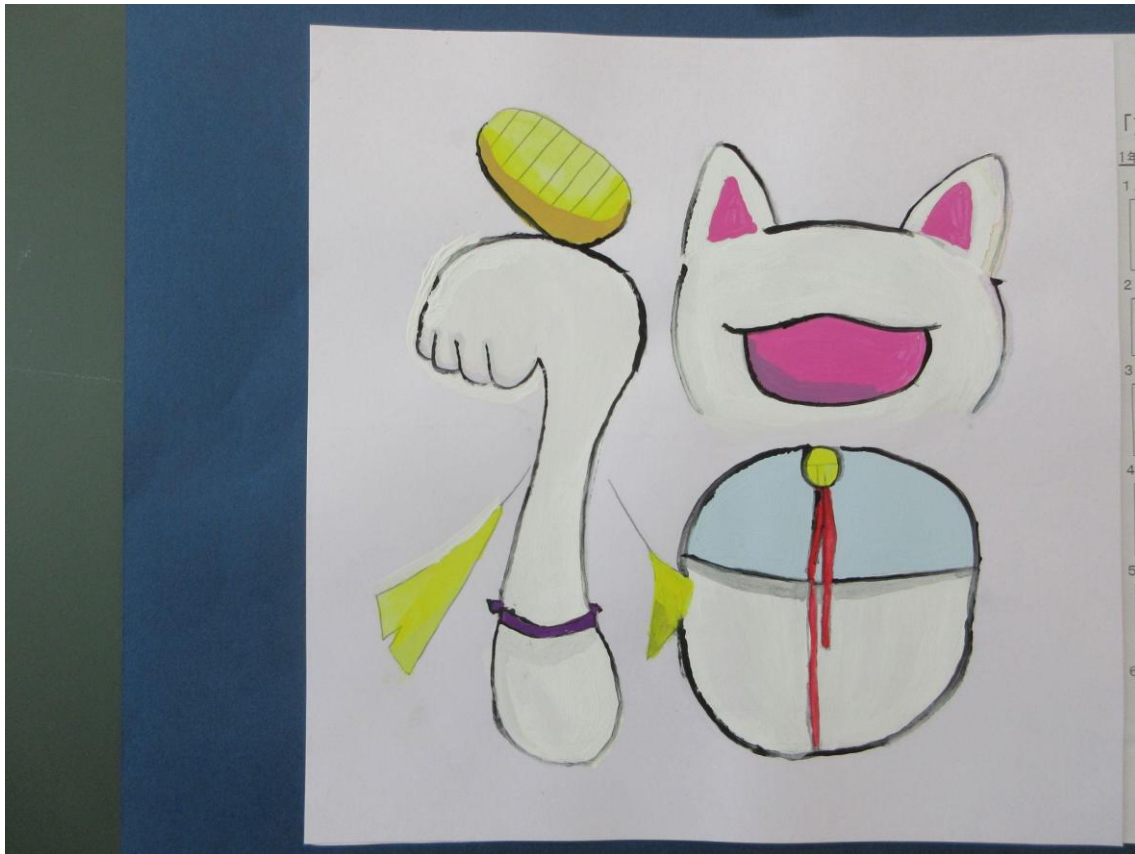
恵庭市 中学1年 題名 絵文字「水」

子どものことば

今年の夏は暑かったから涼しそうな「水」という字に決めました。楽しく伝えるデザインの工夫は、二画目を水の中を魚が泳いでいるようにしたこと。配色の工夫は光が当たった時の光沢や影の使い方などを工夫しました。三画目の蛇口から水が流れているところが漢字の意味の「水が流れる様子」を表現できたところです。白色の縁取りが難しかったです。

先生のまなざし

水に関わるモチーフを上手に取り入れて表現できています。蛇口に描き込んだ白色から金属の輝きや立体感を感じます。メスシリンダーの周りを黒色に縁取るところが難しかったそうですが、慎重に輪郭をなぞっている様子が見られました。水滴の位置や大きさがより水を感じさせ、とても効果的です。



恵庭市 中学1年 題名 絵文字「福」

子どものことば

「福」を絵文字で表現しました。よい意味を持つものをたくさん字の中に入れて工夫しました。また、パステルカラーで全体を明るく統一させた配色にしました。「福」の形を残してデザインするのが難しかったですが、招き猫の手に影をつけたりして上手くかけました。

先生のまなざし

一瞬にして「福」を感じる作品となりました。小判や銀杏の葉、手の部分などに影をつけることによって立体感が表現されているところもよかったです。また、色彩にも統一感があります。猫の笑顔や手の形から福がたくさん舞い込んできそうな感じが伝わってきます。



江別市 中学1年 題名 「いいね」の手

子どものことば

自分の手をよく観察して、影をしっかりと描きました。工夫したところは、鉛筆で描いた影をぼかしたところです。爪の形もリアルに描けました。遠くから見ると、立体感がある手になったと思います。

先生のまなざし

自分の手を深く観察したことが伝わってくる作品です。作者が工夫した「鉛筆の線をこする」という技法により、陰影に柔らかさが生まれ、爪や指の丸みが写実的に描かれています。その結果、作者が目指していた立体感が見事に表現されました。



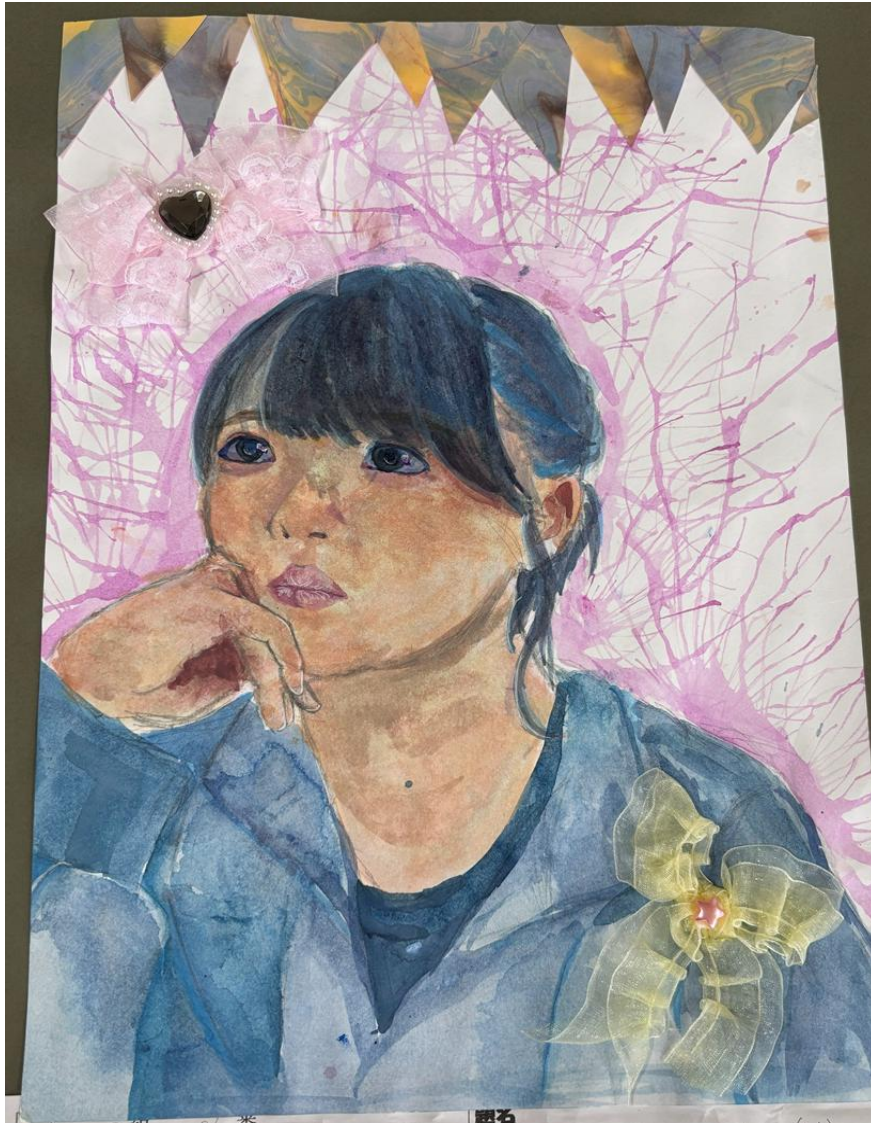
当別町 中学1年 題名 美術室

子どものことば

できるだけ本物の色に近づけてぬりました。周りの色は濃すぎてしまってういてしまっているのですが、つくえなどを遠近法で描けてよかったです。

先生のまなざし

『気になる情景』では、校内の気になる場所を遠近法などの構図を工夫して考えました。そして、タブレットで写真を撮影し、それを絵で表現する題材です。美術部員でもある作者は美術室らしさがよく伝わる構図で、形や色の表現に頭を悩ませ最後まで丁寧に仕上げることができました。



恵庭市 中学2年 題名 自分が思う自分

子どものことば

肌を細かく描き失敗を恐れず力強く描きました。服のしわの凹凸を色で表現すること、光を表現することを頑張りました。

先生のまなざし

遠くを見るまなざしが穏やかで本人らしさを表現できていると思います。モダンテクニックの技法をいろいろ駆使して頑張りました。



江別市 中学2年 題名 紫陽花生まんじゅう

子どものことば

この作品は紫陽花をイメージしてつくりました。紫陽花が大好きな、おばあちゃんに味わって食べてほしいです。生まんじゅうの中には、あんこが入っていて、紫陽花の部分は寒天でつくられています。高級感を出すためにキラキラさせました。

先生のまなざし

この題材（粘土で和菓子をつくる）の導入の時間から、構想を練っていました。テーマは「おもてなし」です。誰に食べてもらうイメージで制作するかをしっかりと考えていました。材料は樹脂粘土が基本ですが、「寒天」をイメージしたものは“おゆまる”を使用し、素材の違いを考えながら制作していました。



江別市 中学2年 題名 「目指せ！ストライク」

子どものことば

何か遠近がつくものはないかと思った時に、真っ先に思い浮かんだのが、ボーリングでした。アクセントを使い、ピンが飛び散る瞬間を表現できました。細い線や点を描くところを特にがんばりました。

先生のまなざし

デザインの構成美の要素を入れながら自由テーマでの作品です。作者の意図がダイレクトに伝わる個性的な構図がおもしろくもあり、色も丁寧に着彩されていて作者の頑張りが伝わってくる作品です。



江別市 中学2年 題名 限りがあるから幸せなんだ！

子どものことば

私が思う幸せは、限りがあるからこそ感じられるものだと思います。もし何もかもが永遠だったら、ありがたさや感謝も薄れてしまうと思うからです。限りがあると分かっているからこそ人とのつながりや日々の出来事が特別に思えていると感じています。

先生のまなざし

中心から外に大きく広がる構図から、限りある幸せを強く実感しているように思いました。中心の円の中には、言葉で言い表せない感情を伴う幸せが、外の円には時計や季節のように日々めぐる小さな幸せが様々に表されて、心の豊かさが伝わります。



当別町 中学2年 題名 優雅にみつを飲む蝶

子どものことば

【生態・特徴】

屋久島に生息している。花びらと似たような模様の羽。1年に1度しか見られない蝶という噂も・・・。

【こだわりポイント！】

羽を大きくして1番最初に目に入るようにした。

羽の色を4色にしたこと。

先生のまなざし

ただ生き物を粘土でつくるだけでなく、完成した蝶と花をどのように飾りたいかを考え、イメージ通りに花びらにとまっている蝶を再現するために、ドリルで穴をあけて針金を通し固定するなど、想いを実現するために粘り強く表現することができた力作です。



恵庭市 中学3年 題名 水面から出てくるクラゲ

子どものことば

夜と海のキャンバスから出てくるクラゲを想像しました。自分の好きなものやことをまとめました。そして自分の好きなことがもっと上達するように、好きなものがもっと好きになるようにという思いで書きました。

先生のまなざし

クラゲをモチーフに作品作りをするのが好きな生徒で、他の作品にもクラゲがいました。空想画として、平面のキャンバスから立体として飛び出てくるクラゲを表したいと、試行錯誤していた姿が印象的です。絵の具や色鉛筆など、より表したい色のイメージや雰囲気を出すために工夫して取り組みました。



石狩市 中学3年 題名 私たちが創る 理想の街

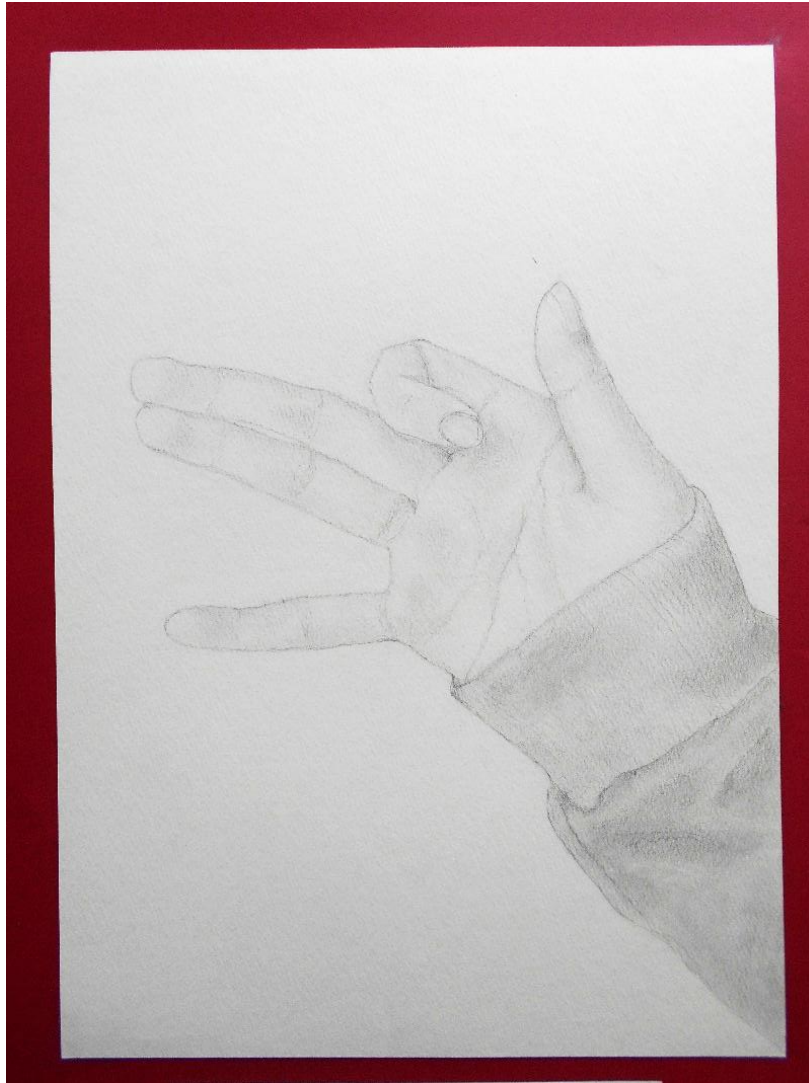
子どものことば

自分が理想だと思う街を作品に描きました。SDGs 11番につながる「平和」が伝わるよう、全体の色を明るく表現しました。

私はこの作品を見た人が、少しでも理想の街に近づくように考えて欲しいという思いで描きました。

先生のまなざし

イメージしたものを表現する力があり、どのように表現したら思いが伝わるかを考え、三年間で学んできたレタリング、遠近法、色彩などを生かした作品となりました。最後まで妥協せず、自分が思う街に近づくよう熱心に取り組んでいました。



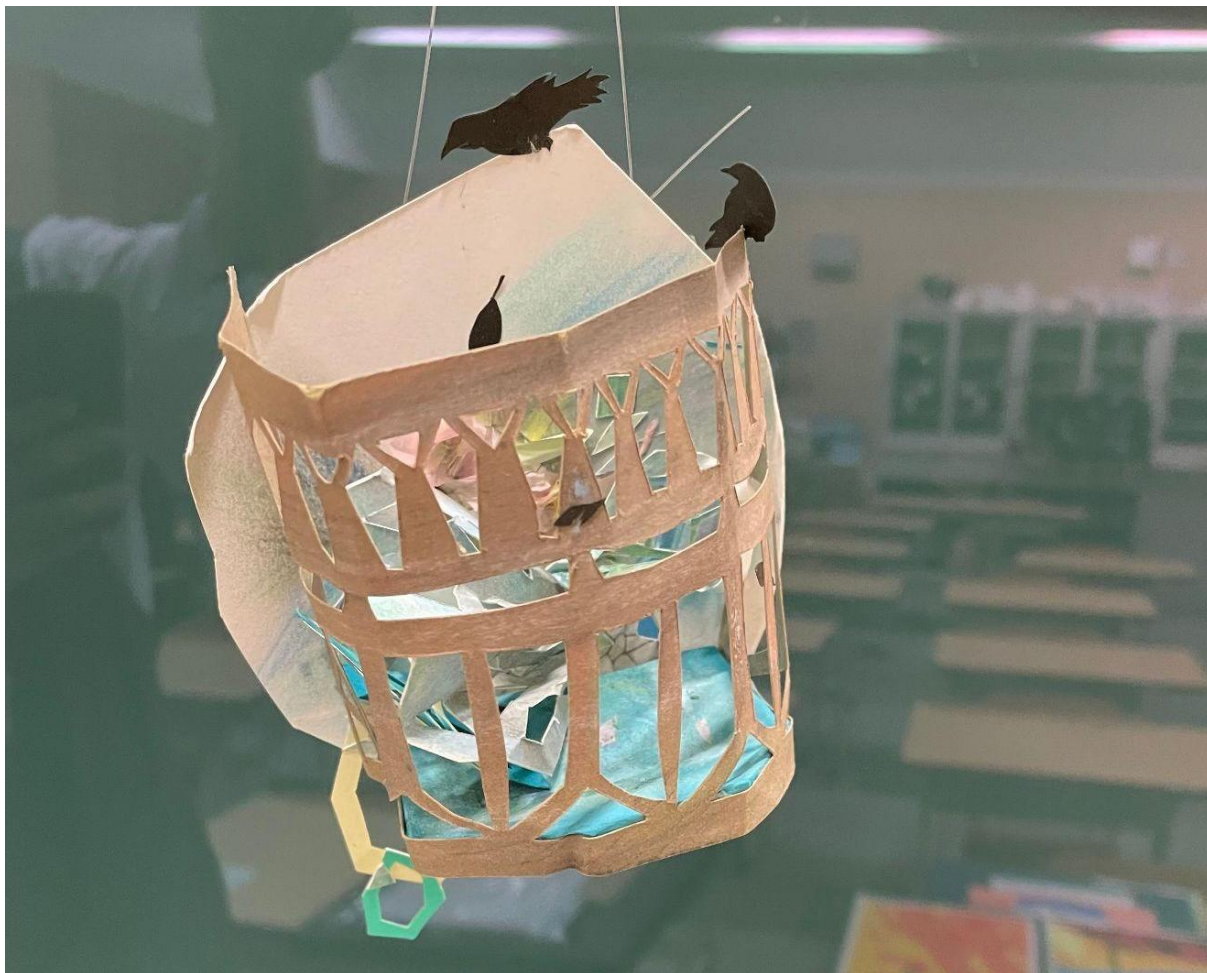
石狩市 中学3年 題名 遊び心

子どものことば

小さい頃からずっと手遊びをしていて、犬のポーズを何度もやっていたので、題材として描いてみました。手の細かい凹凸や陰影を再現するため、指を使ってこすらせたり、鉛筆で細かく薄く描いてしわを作ったりしました。ジャージの質感の再現が難しく、手首の部分と腕の部分の材質感の違いを描き、陰影でジャージを表現しました。

先生のまなざし

自分の手を見つめながら、自分らしさを表現できるような形を模索していました。全体のバランスや、質感にこだわり、リアルな表現を追求する姿が見られました。



当別町 中学3年 題名 自分から見た理想の形

子どものことば

自分が工夫したところは檻の下にある水たまりの様なもので感情の波を表しました。もう一つ工夫したところは綺麗な羽の周りに檻が覆いかぶさっていることです。なぜ、檻が覆いかぶさっているかというと、周りの偏見などを気にし、囚われていることを立体に表したかったからです。自分が試行錯誤したところは、左右で羽の大きさが違うことで自分の短所より自分らしさを引き出したいと思ったからです。次にこの檻の上にいるカラスの向いている方向が違うのは自分自身と向き合うのが怖いことを伝えています。作品をつくり終えて、自分自身が唯一の理解者でありたいと思いました。

先生のまなざし

『今を生きる私へ～自画像～』という題材で自分の好きなもの、イメージなどを書き出し、画材や素材もイメージに合ったものを自らチョイスし、自分自身を表現しました。じっくりと自分自身を見つめなおし、細かなところまで一つ一つを丁寧に、思いを込めて表現することができました。

『石狩の作品集』 第30集 編集委員

【編集委員】

千歳 秋元 のぞみ (千歳市立北栄小学校)
恵庭 鈴木 美保 (恵庭市立恵み野小学校)
北広島 伊藤 美香 (北広島市立北の台小学校)
江別 鈴木 良 (江別市立豊幌小学校)
石狩 杉本 未幸 (石狩市立南線小学校)
当別 駒井 理恵 (当別町立とうべつ学園)

【編集委員／事務局】

部長 江田 充子 (恵庭市立恵庭中学校)
副部長 大槻 力也 (石狩市立双葉小学校)
事務局長 佐々木清美 (恵庭市立柏陽中学校)
事務局次長 治田 昭子 (恵庭市立柏小学校)
研究員 宮田 玲二 (当別町立とうべつ学園)
研究員 初山 絵美 (千歳市立祝梅小学校)
教育課程代表 樋渡 真紀 (江別市立江別第二中学校)
教育課程代表 松下 和生 (千歳市立向陽台小学校)

あとがき

学校の廊下を歩いていると、ついつい掲示されている作品を見て足を止めてしまう。全体を眺めながら、子どもたち一人一人の「思い」を想像してみる。作品票を読んでいると、少しだけその子の心に触れた気になる。夏休みに大きな顎のクワガタを捕まえた！嬉しかったよね…。針金をぐねぐねと曲げてできたコイル状の形がお気に入りなんだなあ…。隣の子、隣の子と順番に読んでいくと、いつの間にか時間が…。反省。

まだ教員になって間もない頃の出来事…。ある女の子の画用紙の中には、魚に乗って空を飛ぶ自分の姿があった。ファンタジックな作品だ。広がる空の空いている空間が気になった私は「もう一匹書いてみたら？」とアドバイス。多くを語る子ではなかったが、何となく怪訝そうに私の顔を見返し、そのまま、書くのを止めてしまった。次の日、国語の時間に書いた作文を読んでようやく気が付く。そこに書かれていたのは…、お祭りで金魚をもらったこと、嬉しくて嬉しくて大事に飼っていたこと、そして、残念ながら死んでしまって、庭に埋めてあげたこと…。あの魚は！？そう、その子の中で生き続けるあの金魚だったのだ。二匹目なんて必要ない。作品作りで構図はもちろん大事。でも、子どもの思いを置き去りにしてしまっただけでは元も子もない。作品に込められた「思い」の大切さに気付かされた。

石教研第二次研究協議会で行われる作品交流。いつも先生方が大きなカバンを抱えて会場校にやってくる。全体会会場に所狭しと並べられた作品の数々。私はそれらを眺める時間が、毎年楽しみで仕方がない。随所にちりばめられた先生方の工夫、生き生きと表現された子どもたちの「思い」。先生方の実践に心を奪われ、ずっと作品を見ていたくなる。そして、子どもたちに作らせてみたくなる。

この度、完成を迎えたこの「石狩の作品集」。ここにもたくさんの作品、子どもたちの「思い」、先生方のまなざしが収録されている。是非ご覧になり、図工・美術の指導に役立てていただけたらと思う。

さて、『石狩の作品集』も創刊から第30集を迎えました。この間、冊子で発行されていたものがデジタルに置き換わり、端末からアクセスすることで誰でも簡単に閲覧できるようになりました。便利になった一方で、冊子で発行していたころよりも、作品数が減っている状況が見受けられます。今後も図工美術部会員の皆様のお力を借りながら、この「石狩の作品集」の内容が充実し、持続的な取組として継続していくことを願っています。「石狩の作品集 第30集」の発刊にあたり、編集委員の方をはじめ、部会員の皆様の多大なるご協力がありました。感謝申し上げます。

石教研図工・美術部会 副部長 大槻 力也

石狩管内 子どもの学びを見つめる「石狩の作品集」第30集

発行日 2026年1月

編集 石狩管内教育研究会 図工・美術部会 石狩教育研修センター教育研究所

発行 石狩教育研修センター

〒061-1112 北広島市共栄315番地

TEL 011-373-0880 FAX 011-373-1542

